



“すべてはイエスのまなざしから始まる”

ジュアン神父

主の復活祭が目前に迫っています。教皇フランシスコは、イエスのまなざしを黙想して、私たちに對するイエスの慈しみと愛を見出すよう私たちに呼びかけています。復活祭は、単にイエスのご復活を祝うだけでなく、イエスとの個人的な体験に基づく福音の宣教師となるよう呼びかけているのです。イエスは、私たちが罪、エゴイズム、不幸といった暗闇から抜け出して、イエスのうちに新しい命を見だし、同時に他の人々に愛の証人となることを求めています。このことに関連して、教皇フランシスコは、マタイの召命を紹介しています(マタイ9:9-13)。

ご存知のように、マタイは軽蔑され、裏切り者であり、公人であった。「しかし、イエスの目には、マタイは一人の人間として映り、不幸もあれば偉大さもある。すべての人は神に愛されているからだ」。このようにキリストは、「相手が誰であろうと、愛の受け手として見るこのまなざしが、福音の情熱の始まりである」と教えてくれる。すべてはこのまなざしから始まるのです。教皇は私たちに、「他者をどのように見ているのか、どれくらいの頻度で欠点を見て、必要を見ないのか。イエスは憐れみと好意をもってすべての人を見ておられます」を自問するよう呼びかけています。

教皇は私たちに自問するよう呼びかけられます。「私たちは他者をどのように見ているのでしょうか、しばしば私たちは必要な部分ではなく、欠点を見つめます。」「イエスは憐れみと好意をもってすべての人を見ておられます。」「私たちはイエスのように学ぶことが必要です。

「私たちは完璧であることを期待すべきではない。私たちの宣教は、今日、私たちが住んでいるところから始まるのです。この宣教の使命は、さらに、「他人を説得しようとするところから始まるのではなく、私たちを見つめ、私たちを引き上げてくれた愛の美しさを日々証しすることから始まるのです」。

皆さん、主のご復活おめでとございます。私たちはイエスから「立ち上がり、他者に向かう道を歩み出し、他者を求める」ことを学びましょう。

"Everything begins with the gaze of Jesus"

Fr. Juan

The Easter of the Lord is at hand. Pope Francis invites us to meditate on the Gaze of Jesus to find His compassion and love to us. Easter is not just a celebration of the resurrection of Jesus, but also a calling to be a missionary of the Gospel based on our personal experience with Jesus. Jesus calls us to go out from our darkness of the sin, egoism, miseries to find a new life in Him and at the same time be his witness of love to others. In relation to this, Pope Francis presents us the calling of Matthew (Matt. 9:9-13).

As we know that Matthew was a despised man, a traitor, a publican. "But in the eyes of Jesus, Matthew is a man, with his miseries and his greatness. Jesus draws near to him, because every man is loved by God". Christ thus shows us that "this gaze that sees the other, whoever he may be, as a recipient of love, is the beginning of the Gospel passion. Everything starts from this gaze". The Pope invites us to ask ourselves "how we look at others, how often we see the defects and not the needs". "Jesus looks at everyone with mercy and predilection," says Francis, and we must learn from his example.

"We should not expect to be perfect," says Francis, "and to have come a long way behind Jesus in order to bear witness to him. Our proclamation begins today, where we live". This mission of proclamation, moreover, "does not begin by trying to convince others, but by bearing witness every day to the beauty of the love that has looked upon us and lifted us up".

Happy Easter, from Jesus we learn to "get up, set out on the road towards others, seek others".

衝突がもたらす影響の一つに、矛盾を対立物として捉えるというものがあります。

対立物とは、二つのものが両極から互いに強く引っ張り合っている状態です。例えば、無限と限界、局地と世界、全体と部分などです。これらは正反対でありながらも、有益で創造的な緊張感の中で作用し合っているという意味で対になっています。創造とはこうした生きる両極性もしくは対立で満ちています。それらがあるから、私たちは生き生きと活動できるのです。一方、矛盾は私たちに、正解と過ちのどちらかを選ぶよう迫ります。

(善と悪は対立物にはなり得ません。なぜなら、悪は善の対等にあるのではなく、善を否定するものだからです)。対立物を矛盾と捉えるのは凡庸な思考によるもので、私たちが現実から遠ざけます。対話と兄弟愛を蝕む衝突の精神は対立物を矛盾に変換します。私たちに選択を迫り、現実を単純な二元論に矮小化してしまいます。これこそ、イデオロギーや悪質な政治家たちのやり口です。ですから、本当の解決策に私たちに導かない矛盾に遭遇してしまったら、それが心を矮小化させるための策略にあることに気づき、それを越えていかねばなりません。

誘惑には2種類あるのです。一つは、どちらか一方の側に自分を閉じ込めて、衝突を激化させること。もう一つは、衝突と関わることを一切避け、そこに緊迫感があることも否定し、関わりを断つことです。

平和をもたらすには、衝突に耐え、真正面から向き合い、表面化している不和の原因の向こう側を識別によって見なくてはなりません。新しい連帯の可能性の扉を開くのです。それはどちら側も破壊せず、良いものや正当なものは新しい視野で保つことです。この進展は、対話による天の恵みとしてもたらされます。それは人々が互いに信頼し、謙遜に善なるものを模索し、相手から学ぼうとする姿勢から生まれます。

その瞬間、凝り固まった問題の解決が、目には見えない予想外の形で現れます。より優れた創造性が、外側から流れ込むのです。これこそ、私が「氾濫」と称するものです。それは私たちの思考を凝り固めていた土手を破壊し、対立構造のせいでそれまでは見えなかった答えをどんどん運んでくれます。私たちは、それを神からの恵みと捉えています。

なぜなら、それは聖典に記された聖霊と同じ行動であり、歴史的にもそれが証明されているからです。「氾濫」は詩編23章の、みずからの杯が神の恵みで溢れるというくだりにも使われている言葉です。「氾濫」はイエスが、私たちが許せばその懐に溢れ出ると約束して下さっているものです(ルカによる福音書6:38)。イエスが何をもちたためにやってきたかを説明するために使われている単語でもあり(ヨハネによる福音書10:10)、パウロが神の寛容さを説明するために使っている単語です。(コリント人への第2の手紙1:5)。放蕩息子に駆け寄りて抱きしめる父親、宴会に通ったり畑から客を集めた結婚式の主催者、一晩中収穫がなかったのに夜明けになって網が破れるほどかかった魚、そして死の前夜に使徒の足を洗われたイエスなど、聖書の有名な物語に溢れている、神の本質なのです。

こうした愛の氾濫は、何よりも人生の岐路で起こります。心を開き、自らの脆さに気づき、謙虚になったとき、神の愛が自分本位という私たちのダムを決壊させ、可能性に對する新しい想像力をもたらすのです。

ワールドユースデーへの誘い

堺ブロックチーム 春名昌哉神父

今年の7月から8月にかけて、ポルトガルの首都リスボンでワールドユースデーが開催されます。私にとっては23年前、12年前に続いて3度目のワールドユースデーとなります。

ワールドユースデーは前教皇ヨハネパウロ2世の呼びかけで1984年に始まり、それ以来、2、3年ごとに開かれてきました。毎回世界各地から、大勢の青年たちが参加します。私が参加した23年前のマニラ大会は約400~500万人、12年前のマドリード大会は約200万人が集まりました。教皇様を中心に青年たちが集まり、祈りとカテケージス、分かち合いを中心にして、交わりを深めていきます。

ワールドユースデーに参加すると世界各国の青年たちと豊かな交わりの時間を持つことができます。言葉の壁は存在しますが、同じキリスト者として信仰によって深く結ばれている、教会は一つであることを肌で感じることができました。日本ではカトリックは少数派であり、学校や職場で同じ信仰を持つ人と出会うのは極めて稀なことです。周囲に同じ信仰を持つ人が少ないことで孤独を感じたり、キリスト教的価値観と日本の価値観との違いに悩まされたりすることもあ​るでしょう。しかし一歩世界に出れば、国籍や民族は違っても、同じ信仰を持つ多くの仲間たちと出会うことができます。私も青年時代にワールドユースデーに参加して、多くのことを感じ学びました。

このような出会いを通して青年たちは、自らの信仰と出会い、それを深めていきます。私も2度の参加で同じことを感じました。もしマニラ大会に参加していなければ私は果たして司祭になっていただろうかと思ひます。そのときの体験が、今私が司祭として生きる原点になったと言っても過言ではないのです。それほど大きな体験を青年たちはワールドユースデーから得ることが出来ます。

堺ブロックから、大阪教区から、日本全国から次の世代の教会を担う青年たちが、一人でも多く参加してくれることを望んでいます。彼らがワールドユースデーに参加することによって、キリストに従って歩む心を、より豊かなものとする事ができますように。
(堺教会ニュース3月号より)

〇〇お知らせ〇〇

• マスク着用と手指の消毒について。

和泉教会ではしばらくは、今のままマスク着用と手指の消毒は実施します。

• 4月の初金曜日のミサはありません、お間違えの無いようにお願いします。

• 今年の復活祭では洗礼式があります、新たに和泉教会の一員となられるのは、

藤森 ゆかりさんです。皆さんの祝福のお祈りをお願いします。

• 信仰養成委員会より

新しい講座「主日のミサの学び」が始まります。

場所：和泉教会
日時：4月15日土曜日 14時30分
(以降毎週土曜日 14時30分)
講師：Sr.ルイザ
担当：信仰養成委員会 小山

講座内容：翌日の日曜日のリーフレットを使用し福音を読みます、少しイエス様に

近づきませんか。

• 地区中高生会より

Youth春の会が次の通り開催されます、詳細は掲示板をご覧ください。

日時：4月23日(日) 10:30から17:00

場所：紀ノ川教会

参加費：新中1、高1 無料 それ以外の中高生 500円 大人 1500円
申し込み締め切りは4月9日

• 信徒総会について

5月14日(日)ミサ後に信徒総会を予定しています。

会計報告、各委員会より報告、などがあります。

4月 主日ミサ予定	浜寺 9時30分	和泉 9時30分	岸和田 9時30分
2日 受難の主日	ロペス	村田 評議会	ジュアン
9日 ✕復活の主日	村田 11:00ポルトガル語 イッポリト	ロペス	ジュアン
16日 復活節第2主日	ジュアン	ロペス	村田 評議会
23日 復活節第3主日	ロペス	ジュアン 11:00英語 ジュアン	村田 11:00英語 村田
30日 復活節第4主日	ジュアン	村田	ロペス

聖週間のミサ予定	浜寺 19時00分	和泉 19時30分	岸和田 19時00分
6日 聖木曜日 (主の晩さん)	ロペス	村田	ジュアン
7日 聖金曜日 (主の受難)	村田	ジュアン	ロペス
8日 聖土曜日 (復活徹夜祭)	ジュアン	ロペス	村田

~4月の予定とお知らせ~



講座「主日のミサの学び」・・・4月15日より毎週土曜日
14時30分(Sr.ルイザ担当)



聖週間の聖なる三日間「」のごミサについて

和泉教会は19:30分より行います、お間違えの無いようにお願いします。

23日(日)地区中高生会 youth 春の会 紀ノ川教会 10:30~

4月の典礼 奉仕当番	先 唱	朗 読	共同祈願
2日 受難の主日	渡辺 直彦	レイシエル 西川 保彦	ロッチ 瀬上 和昭
9日 ✕復活の主日	五来 光政	勝田恵美子 喜山章次郎	福田 京子 小野田 裕
16日 復活節第2主日	瀬上 和昭	堀川美智代 五来 光政	西川 愛日 小野田 裕
23日 復活節第3主日	五来 光政	古木 弘子 堀川 康弘	渡辺ひろみ 西川 保彦
30日 復活節第4主日	渡辺 直彦	渡辺ひろみ 瀬上 和昭	中原ミヨ子 喜山章次郎

聖週間の 典礼奉仕当番	先 唱	朗 読	共同祈願
6日 聖木曜日 (主の晩さん)	渡辺 直彦	第1朗読 喜山章次郎 第2朗読 西川 保彦	木村 副見 西川 愛日
7日 聖金曜日 (主の受難)	渡辺 直彦	第1朗読 西川 愛日 第2朗読 小野田 裕 福音 A 古木 弘子 C 渡辺 直彦	盛式共同祈願 (1,2,4,5,7,10) 司：神父 助：西川 保彦
8日 聖土曜日 (復活徹夜祭)	西川 保彦	第1朗読 渡辺ひろみ 第3朗読 堀川 学 第7朗読 小山 範子 朗 読 堀川美智代	瀬上 和昭 森 郁枝